

ひとりにしない! 子育て介護

# かとう涼子の

# 市議会通信



発行: 西東京・生活者ネットワーク 発行責任者: 広瀬郁美 発行日: 2022年10月10日  
〒202-0015 東京都西東京市保谷町6-25-1-102 E-mail nishitokyo@seikatsusha.net  
TEL 042-453-4121 FAX 042-410-0014 URL https://nishitokyo.seikatsusha.me




## 走々介護、ワンオペ介護はもう限界! 在宅介護をしているケアラーへの支援を!

「認知症の夫から目が離せない」「痰の吸引でまとまった睡眠がとれない」——。コロナ禍の中、休みもなく在宅介護を続けているケアラー(介護者)は、体力も気力も限界です。ケアラーがまとまった休息を得るには、安心して利用できるショートステイが欠かせません。ところが医療行為が必要になると、デイやショートの入先はぐっと狭まってしまいます。超高齢化に伴い、胃ろうや酸素吸入、痰の吸引等が必要な要介護者の数は急増しています。医療行為に対応できるショートステイの確保や、病院での一時預かりは喫緊の課題。在宅介護を支える体制強化に、全力で取り組みます!

## 気になりませんか? 学校での同調圧力と子どもへの影響

コロナの中で、たくさんの方のことをガマンしてきた子どもたち。学校にも社会にも閉塞感が高まる中、マスクがつけられないなど、他と違う行動をする子への視線が厳しくなっていると感じます。「みんなガマンしている。でも本当は私だって苦しい」という気持ちを、子どもが安心して声にできるよう、一人ひとりに寄り添う対応を教育委員会に要望しています。市内の不登校児童・生徒数は過去最高を更新しています(小学校102人、中学校199人/2021年度)。学校に行かれない理由はさまざまですが、同調圧力の高まりと子どもたちの受けるストレスには、引き続き注意が必要です。



### かとうの近況報告

要介護5の父を、7月から自宅で介護しています。「最期まで地域で暮らす」を政策に掲げる自分が、まずは介護の現実を知るべきだと覚悟を決めました。現場の課題を市政へしっかりとつなぎます!



我が家は三世同居ですが、たった一人で介護している方の重責を思うと心が痛みます。ケアラー支援は喫緊の課題です!



西東京市がジェンダー平等という言葉を避けているのは、政治的な圧力がかかっているせい? 時代遅れの男女平等参画推進計画を見直そう!(9/11 田無駅北口)



議会レポートをお届けしています。見かけたら気軽に声をかけくださいね♪

### 九月議会ではこんな質疑も

- ・ 相次ぐワクチンの誤接種 市は再発防止の徹底を!
- ・ 空き家の有効活用で、「コミュニティの拠点をつくらう」!

生活者ネットの提案が実現し、今年度中に、西東京市でも(仮称)空き家バンクが実現する予定です。貸し物件が増えるよう、空き家所有者への優遇措置も求めています。

### かとう涼子のプロフィール

1971年生まれ。柳沢小,田無四中,保谷高校,法政大学社会学部卒。出版社に勤務し,月刊誌『自治研』を23年にわたり編集。2015年より西東京市議会議員(2期8年)。不登校を考える親の会(IPPPO)や放課後カフェ,ふれあいのまちづくりなど地域活動にも多数参加。趣味は和太鼓,コーラス,寄席通い。夫,息子,娘,父母の6人家族。南町在住。

